

# 世界へ

## 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録について

### やんばる地域及び西表島の世界自然遺産登録について

琉球諸島に属する本県は、国内唯一の亜熱帯海洋性気候にあり、近傍を流れる黒潮の影響により一年を通して温暖な気候にあります。そのため、亜熱帯域に多雨林が発達する、世界でも稀で特異な自然環境を有する地域となっています。

沖縄本島北部は「やんばる」と呼ばれ、日本最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、ヤンバルクイナをはじめとする希少な動植物が生息・生育しています。(写真1)さらに、広大なマングローブ林や原生林を有する西表島では、イリオモテヤ



やんばる地域にはスダジイが優占する亜熱帯照葉樹林が広がり、ドングリ等の森の恵みは多くの生物の生命を支えています。



西表島では、メヒルギやオヒルギなどからなるマングローブ林が広がり、海、川、森が連続した自然を有しています。

マネコを頂点とする生物多様性豊かな生態系が形成されています。(写真2)

こうした類まれなる自然環境を有することを背景に、やんばる地域と西表島は、鹿児島県の奄美大島、徳之島とともに、4つの地域から構成される「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」として世界自然遺産登録を目指しています。

### 【登録されるには?】

世界自然遺産に登録されるには、人類共通でかけがえがなく、他に二つとない「顕著で普遍的な価値」を有しており、4つの登録基準「自然美」、「地形・地質」、「生態系」、「生物多様性のどれか一つ以上を満たしている必要があります。また、将来に渡って遺産価値である自然環境を保全するため、国立公園へ

と考えられています。

### 【世界自然遺産に登録されると何が変わる?】

ちなみに、世界自然遺産に登録されると、何がどう変わるのでしょうか?

まず、第一に、遺産の価値である貴重な自然環境を守っていくため、希少種の保護や外来種対策、適切な観光管理などの取り組みがさらに強化されます。

それから、観光地としてのイメージが向上することに伴う観光客の入れ込み数の増加が見込まれます。自然環境に大きな負荷をかけないよう適正に利用していくことが前提となりますが、多くの方が地域に訪れる機会が増えることで、観光産業が発展し、新たな雇用の創出も期待されます。また、地域の知名度の上昇による農産物や水産物等の地域の特産品のブランド力

の指定等による当該地域の自然環境を厳正に保護する措置がとられていることや、地域と連携した遺産の管理体制が構築されていることなどが求められます。

### 【遺産としての価値は?】

本地域では、1千万年以上もの長い時間の中で大陸と分離・結合を繰り返し、現在の琉球諸島が形成される過程で、島々に隔離された生き物たちが独自の進化や分化を遂げています。ヤンバルテナガコガネ(写真3)やリュウキュウヤママガメなどは、同種や近縁の種が大陸や近隣地域で絶滅してゆき、やんばる地域にだけ残された種です。これらの種は、生きた化石「遺存固有種」と呼ばれています。さらに、トゲネズミやイシカワガエル(写真4)などは、奄美群島と沖縄諸島でさらに種分化し、それぞれ独自の進化を遂げています。また、イリオモテヤマネコ(写真5)は、海面低下した氷期に台湾から西表島へ移動し、タイワンヤマネコと分化したと考えられています。こうした大陸との地史を反映した独自の向上も期待されます。

さらに、これらの地域には、国頭村のシヌグや西表島の節祭(しち)等の祭事をはじめ、自然と人との豊かな共生の伝統や文化があり、自然と密接に関わっています。遺産登録により、自然と共生してきた地域の文化や、地域の自然そのものに対する住民の誇り、そして地域を大事にする心の醸成にもつながります。

### 県民一人ひとりができること

遺産登録を目指している一方で、島という閉鎖的な環境で形成されてきた琉球諸島の生態系は、非常に弱く脆弱なものであり、例えば以下のような脅威に晒されています。

#### ①希少動植物の密猟・盗採

心ない密猟者による希少な昆虫や植物等の密猟・盗採が横行しており、絶滅が危ぶまれています。

#### ②野生動物の交通事故

本地域では野生動物の生息地と近いところに道路が通っている場所もあり、ヤンバルクイナやイリオモテヤマネコ等の多くの野生動物が毎年交通事故にあっています。

#### ③外来種による在来種への影響

マングースや野生化した犬・猫等の他の地域から持ち込まれた外来生物が野生動物を捕食するなど、

日本最大の甲虫であるヤンバルテナガコガネは生息環境となる樹洞を有する大径木が減少していることや違法採集によって、生息が脅かされています。



日本で一番美しいカエルともいわれているイシカワガエルは奄美大島と沖縄本島で別種に分化しており、新固有種と呼ばれています。



国の特別天然記念物にも指定されているイリオモテヤマネコは推定個体数が100頭前後とされ、交通事故や生息地の消失等により絶滅の危機に瀕しています。

特の生物進化を表す「生態系」や、ヤンバルクイナ(写真6)をはじめとする多数の国際的な絶滅危惧種が生息・生育している「生物多様性」が、顕著な普遍的価値として登録基準を満たす可能性が高いとされています。

在来種へ深刻な影響を与えています。(写真7)

#### ④無秩序な利用による自然環境への負荷

自然環境を利用したエコツーリズムが盛んに行われていますが、行き過ぎた利用は自然環境に大きな負荷を与えます。(写真8)

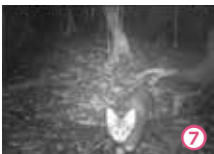
世界自然遺産登録がゴールではなく、次の世代にも同じ感動を伝えることができるよう自然を守り、継承し、地域を持続的に発展させていく必要があります。そのためにも、登録地域の住民だけではなく、県民一人ひとりが自然に触れあい学びながら、世界自然遺産にもなり得る希少で稀な沖縄の自然に対する理解を深めていくことが重要です。

**沖繩の自然を守るため一人ひとりが今日からできること!**

- 自然に触れて、生き物や生態系について学ぼう!
- 自然を訪れたときは、むやみな生き物の持ち出しは避けましょう!
- 犬や猫等のペットは山野へ放さないように責任を持って飼育しましょう!
- 山道では、ゆっくり安全に運転しましょう!



やんばる地域にのみ生息する日本で唯一飛べない鳥であるヤンバルクイナは、マングースや野生化した犬・猫による捕食等によってその生息が危ぶまれています。



奄美大島ややんばる地域では、野生化した猫によるトゲネズミ等の希少種の捕食被害が起こっています。



特定の場所への利用の集中や無秩序な立入りなど、行き過ぎた観光利用は自然環境に大きな負荷を与えます。